

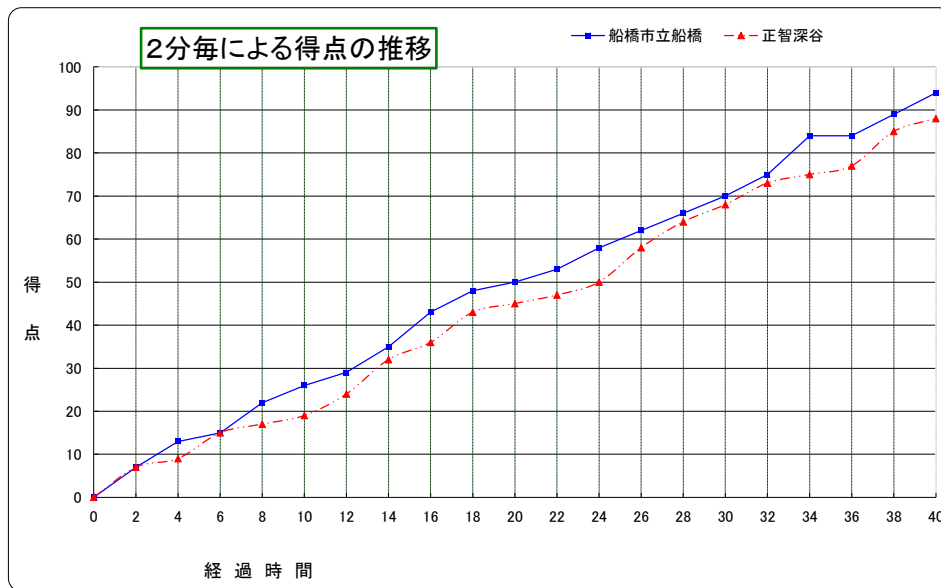
# 平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月5日(日)  
深谷ビッグタートル  
Aブロック決勝

チームA			チームB
船橋市立船橋 (千葉)	94	{	正智深谷 (埼玉)
		26 1st 19 24 2nd 26 20 3rd 23 24 4th 20	}
		88	

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	石塚 周太	7	1	2	2	5	0	0	2	0	2	1	1	0	1
5	田村 伊織	19	0	0	9	16	1	1	4	4	11	0	8	0	1
6	増田 修大	4	0	1	2	3	0	0	0	2	1	3	3	0	2
7	赤穂 雷太	18	1	6	7	10	1	2	5	1	4	0	1	0	2
8	相川 大和	4	0	1	2	4	0	0	2	0	2	0	0	0	0
9	富澤 春輝	0													
10	島山 功	0													
11	島田 舜太	0													
12	兼重 パトリック	0													
13	保泉 遼	32	8	14	3	7	2	2	1	0	2	1	4	0	1
14	庄司 理宇	0													
15	三上 颯斗	0													
16	野崎 由之	10	2	7	2	4	0	0	0	2	3	0	2	1	2
17	大川 颯斗	0													
18	大澤 響生	0													
コーチ	近藤 義行									2	7				1
		94	12	31	27	49	4	5	14	11	32	5	19	1	10
		確率	38.7%		55.1%		80.0%			計 43					

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	山口 颯斗	32	4	12	8	17	4	6	2	5	4	2	3	0	2
5	中島 修平	0	0	2	0	2	0	0	2	1	2	0	2	0	1
6	角田 憲信	0	0	0	0	4	0	0	0	1	1	0	1	0	0
7	増田 英寿	26	0	0	12	20	2	2	0	6	6	1	0	3	1
8	山口 大成	6	1	2	0	5	3	4	2	1	5	0	2	0	0
9	常田 耕平	9	1	4	3	5	0	0	2	0	3	1	1	0	1
10	中村 吏	0													
11	野元 啓太郎	15	1	2	6	8	0	1	1	1	1	1	2	0	2
12	川口 颯太	0	0	2	0	1	0	0	1	2	2	0	1	0	0
13	田中 翔真	0													
14	阿久津 瞬	0													
15	渡邊 圭吾	0													
16	國分 大雅	0													
17	早川 童生	0													
18	勝山 大輝	0													
コーチ	成田 靖									3	7				1
		88	7	24	29	62	9	13	10	20	31	5	12	3	8
		確率	29.2%		46.8%		69.2%			計 51					



## 戦評

地元開催でAブロック初優勝を狙う正智深谷と3年ぶりの優勝を狙う市立船橋の決勝戦。

第1P 両チーム共にハーフコートマンツーマンディフェンスで始まる。市立船橋#16の3p、正智深谷#4のジャンプシュートが決まり、決勝戦らしく集中した雰囲気となる。最初に主導権を取ったのは市立船橋で、#7のフックシュート、1対1からのドライブイン、#16#5のゴール下への合わせなどでリードする。正智深谷は#7が3連続でジャンプシュートを決め、#4のゴール下、#7の速攻で15対15の同点に追いつく。正智深谷は#4が果敢に1対1を試み、2連続でドライブインを決める。市立船橋は#7が中外バランスよく攻め、1対1からフックシュート、3pを決め、ラストプレイでハイビックからブザービートでジャンプシュートを沈めて26対19市立船橋リードで終了。

第2P 開始早々激しいルーズボール争いで両チームとも次々とフロアにダイブし、会場を沸かせた。7点差を追う正智深谷はディフェンスを1-1-3ゾーンに変え、市立船橋の高さに対抗する。市立船橋は#4#13がゾーンの外から3pを決めるが、正智深谷もオフェンスリバウンドを頑張り、#4#7がゴール下で決め返す。正智深谷の途中出場した#11がドライブインを2本決め、3点差まで追い上げる。ここからお互いに入れ合いの展開となり、市立船橋の#13が3pを3本連続で決めると、正智深谷#7が高確率のジャンプシュートとリバウンドで3連続得点する。一進一退の攻防が続き、市立船橋は#5がゴール下で踏ん張り、正智深谷が#11のドライブインで返す。少し差を縮めて50-45市立船橋リードのまま前半終了。

第3P 正智深谷は3-2ゾーンに変え、リバウンドやスティールからの速攻が出るが、市立船橋は#13#16の3pで差を詰めさせない。正智深谷の#11がスティールからの速攻で4点差としたところで市立船橋のタイムアウト。市立船橋はゾーンの真ん中を#5が攻めるが、正智深谷が#9の1対1、#4のリバウンドシュートで食らいつき、#8の3pが決まり、残り2分でついに同点に追いつく。市立船橋は#7がゴール下のシュートを決めるが4ファウルとなってしまい、不安を残す形となる。70対68市立船橋リードで終了。

第4P 正智深谷は1-1-3ゾーンに戻すが、市立船橋の#13が3連続して外から射抜き、#5がハイポストからのジャンプシュートで再び差を広げる。正智深谷は#11がキレキレのドライブインや3pを決めるが、チーム全体でその後のシュートが落ち続ける。正智深谷#4#7がゴール下で合わせるのに対して、市立船橋は#5#7もゴール下で合わせ、お互いインサイドでの決め合いとなる。残り2分、正智深谷の#4が連続して3pを決め4点差としたところで市立船橋がタイムアウト。正智深谷#4が4ファウルの市立船橋#7を攻めたてファウルアウトに追い込む。フリースローの後からオルコートでプレッシャーをかけるが、捕まえられず、さらに市立船橋#13がこのゲーム8本目の3pを遠い位置から沈め、4点差から7点差へとする。正智深谷は最後までボールを追いかけるが市立船橋が冷静にボールをキープし、94対88で市立船橋が3年ぶりの優勝を飾った。

記録者:伊澤 暁

Ref	稲葉 威	1st U	渡邊 諭	2nd U	石田 祐二
-----	------	-------	------	-------	-------